

地方図書館での「マルチメディアDAISY図書」の活用推進

三条市立図書館
瀧澤 佳江 加藤 涼平

はじめに

三条市立図書館では、2019年7月8日に施行された読書バリアフリー法をきっかけに「マルチメディアDAISY図書」の普及を行うことになりました。以前より当館は、カセットテープやCDの音訳資料、布絵本や大活字本といった本など、読むことが困難な方に向けた資料を多く所蔵しています。「マルチメディアDAISY図書」を利用促進することで、上記の資料を拡張し、誰もが読書を楽しむことができる図書館を目指すことを目標にしました。

「マルチメディアDAISY図書」のPR！

利用者に広く知ってもらうための取り組みとして、大きく3つの段階に分けて活動しました。

取り組み① 事前準備（体験会の開催、資料登録、貸出ルールの策定など）

取り組み② 来館者や学校や保育所などへのPR（コーナーの作成、一般利用者向けの貸出、体験コーナーの設置、団体貸出の周知）

取り組み③ さらなるPR（読み聞かせ経験者への講座での周知）

(1) 事前準備（体験会の開催、資料登録、貸出ルールの策定など）

まず、導入として「マルチメディアDAISY図書」とはどのような資料なのかを、利用者に知ってもらうために、体験会を開催しました。

概要は、以下の通りです。

<実施事例>

- ・開催日時：2019年12月22日（日）午前10時～12時
- ・会場：図書館本館 視聴覚室
- ・参加人数：13名（子ども：3名、大人10名）
- ・内容：わいわい文庫がインストールされているiPadを伊藤忠記念財団よりお借りし、利用者に操作していただきました。

イベント開始から30分ほど経過しても、どなたも部屋に入って来ず、不安な思いがありましたが、徐々に利用者が参加されました。

子どもたちが、音声スピードの変更や文字の大きさを変えて楽しんで利用しており、親御さんから、「子どもたちの読書の入門として使いやすいと思います」、「いつから貸し出しできますか?」というご意見をいただきました。また、視力が良くない方がご利用され、「文字の大きさを変えることができ、とても便利」とおっしゃっていました。

普及活動への一步を踏み出すことができた喜びと、マルチメディアDAISY図書を必要としてくれている利用者がいることを知り、励みになりました。



(2) 来館者や学校や保育所などへのPR(コーナーの作成、一般利用者向けの貸出、体験コーナーの設置、団体貸出の周知)

次の段階として、2020年4月より、図書館本館にマルチメディアDAISY図書用の棚を設置し、一般利用者向けに貸し出しのサービスを開始しました。また、体験コーナーの設置や学校を対象とした団体貸出サービスを開始し、

PR活動を行いました。

<実施事例>

- 期間：通年
- 内容：一般向け利用者への貸し出しに関しては、わいわい文庫の白いディスクの内容をCD-Rにコピーし資料登録したものを、カセットテープやCDなどの音訳資料近くの棚に配架しました。利用者より、「電子書籍があると伺ったが、借りることはできるか」、「健常者でも利用できるか」というご質問をいただきました。



体験コーナーに関しては、児童書の近くにパソコンを設置し、どなたでも利用できるようにしました。パソコンには、わいわい文庫2013ブルー版を入れ、ショートカットのアイコンを作成し、デスクトップに置きました。数回のクリックでマルチメディアDAISY図書を楽しめるように工夫しました。子どもや家族で利用し、「昔話を読めて楽しい」「色を変えることができて面白い」「教科書でみたことある!」と言

いながら、楽しんでいました。



学校向けの団体貸出としましては、市内すべての小中学校に向けてチラシを配布しました。配布後、数校の先生より問い合わせがあり、特別支援学級の子どもたちに使わせたいという学校への貸出に結びつきました。

(3) さらなるPR (読み聞かせ経験者への講座での周知)

読み聞かせ経験者への講座を通じて、貸し出し以外の方法でPRを行いました。実施事例は、以下の通りです。

<実施事例>

- ・開催日時：2020年11月13日（金）
18時30分～20時
- ・会場：図書館本館 視聴覚室
- ・参加人数：14名
- ・内容：読み聞かせボランティアと読み聞かせに携わる方のステップアップを目的とした講座です。特に、高齢者や障害のある方へ向けた本の選書・プログラムの組み立て方などを

学ぶことに重点を置きました。その中で、マルチメディアDAISY図書を紹介しました。

機能について紹介した後、取り組み①と同様に、わいわい文庫の内容がインストールされているiPadを伊藤忠記念財団よりお借りし、利用者に操作していただきました。

「マルチメディアDAISY図書を主とした講座があれば参加したいです」というご意見をいただき、関心の高さを実感することができました。実際に操作した体験をもとに、ボランティアから施設などでの読み聞かせの際に紹介していただきたいと考えています。



おわりに

まだまだ広報活動不足だと思います。その中でも、障害がない方や子どもたちから利用したいという意見をいただいていることは喜ばしいことだと思います。今後も、講座やイベントの実施などを通して、普及に努めたいと考えております。